

## 奈良の駅 シリーズ Vol.06



### みわ 駅名：三輪駅



三輪駅舎 外観

#### 【駅舎概要】

所在地：桜井市大字三輪  
 区域区分等：近隣商業地域  
 構造・規模：木造平屋建 152.5㎡  
 建設時期：昭和9年

#### 【沿革】

明治31年5月：奈良鉄道京終～桜井間の開通に伴い開設  
 明治38年2月：関西鉄道が奈良鉄道を合併。関西鉄道の駅舎となる  
 昭和40年10月：関西鉄道国有化  
 昭和62年4月：国鉄分割民営化により西日本鉄道(JR西日本)の駅となる

JR万葉まほろば線の駅シリーズ第6回は、三輪駅です。日本最古の神社のひとつである三輪明神大神神社の最寄りの駅ということもあり、正月等の多客繁忙期には臨時列車が運行され、降車専用の臨時改札口が設けられるほど賑わいます。

#### ■歴史・周辺環境

三輪駅周辺の町は、駅開設当時上街道沿いに発展しており、駅の周辺は湿田でした。鉄道開通によって西方駅前通り、栄町など附近一体の整備充実が図られ、次第に町の中心が三輪駅付近に移り、今日の町場を形成していきました。周辺には、三輪明神大神神社をはじめとして、聖徳太子が開基したと伝えられる平等寺、国の重要文化財に指定されている金屋の石仏などの史跡が多数あります。



明治31年開設当時



昭和30年の駅舎

#### ■保存・活用

平成22年奈良県の「一市一まちづくり」のモデル地区に採択され、良好な景観形成をテーマに今日まで地域住民と行政による話し合いが進められ、平成30年には「三輪地区・大神神社参道地区景観ガイドライン」が策定されました。平成31年2月、駅前に景観に配慮された瓦葺きの公衆トイレが完成し利便性も増しています。

令和5年度からは、地元のまちづくり団体が主催する三輪まちなか「つば市」の会場の一つとして駅舎、駅前広場を活用してイベントが開催されています。

【記：桜井支部 山本規子】



駅舎図面



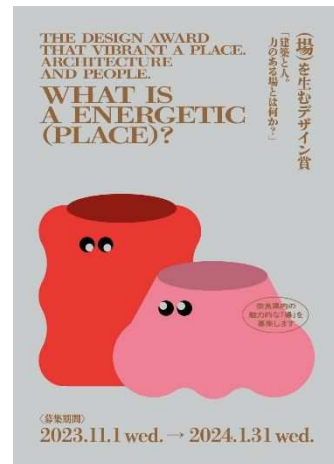
新設されたトイレ



■『(場)を生むデザイン賞 2023』について

奈良県景観デザイン賞は、奈良県景観調和デザイン賞として開催していた時代を含め、県内の優れた建築を数多く表彰してきました。しかし、地域を取り巻く状況は、人口減少や少子高齢化等多くの課題を抱えており、近年大きく変化しています。そこで、「地域社会に密接に関わる建築のあり方もその変化に歩み寄る必要があるのではないか」という思いをデザイン賞に取り入れたいと考え、前回(2年前)より、装いも新たに『(場)を生むデザイン賞』として、『場』という視点を明確にしたコンペティションを実施しています。今回も、『(場)を生むデザイン賞 2023』として、前回と同様のコンセプトにて開催しました。

その結果、前回同様、「地域の人々の縁となる場」、「地域の人々が元気になる場」、「地域の人々の記憶となる場」など30点の魅力的な場を応募いただきました。



■『(場)を生むデザイン賞』の審査結果発表

最優秀賞 (知事賞)

明日香 スタンド

所在地：高市郡明日香村岡7

受賞者

伊藤立平建築設計事務所 伊藤立平



明日香村に古くから建つ米屋の屋敷跡全体を、村人や来訪者へ開かれ、村の魅力や場所の歴史性を通して感じることができる場所として、再活用されることとなったものです。当作品は、計画当初からプレスリリースを継続的に作成するなど、相互の意思疎通がうまく取れているように見受けられ、『場』を作るチームの在り方として理想的です。特に、地元の商工会在、通年で営業し続ける施設を立ち上げ実現させたことは、全国の商工会在を勇気づけることとなり、おおいに評価できます。

優秀賞

GOSE SENTO HOTEL

所在地：御所市内に点在

受賞者 (株)御所まちづくり

御所まちエリアに計4棟の古民家物件を活用した「泊・食・湯」分離の分散型ホテルです。既存建物のリノベーションによる町おこしの事例は全国で見受けられますが、その中心にまちの銭湯があることにより、対象者に地域住民がいて、その上で外部からの来訪者を受け入れる場となっていることが特徴的です。



## 『(場)を生むデザイン賞 2023』～第 20 回奈良県景観デザイン賞～の審査結果報告

### 優秀賞

#### 花ちゃんちのおうちごはん

受賞者 花村淑子

所在地：奈良市中登美ヶ丘1

一人暮らしの高齢者が多い団地の中にある、地域の人たちが会話とごはんを楽しむことができる食堂です。団地再生は日本全国共通の課題です。この作品は店主にとって、団地を一所帯と見立てた新しい家族の在り方に対する提案と捉えると非常に魅力的な事例です。



### 奨励賞

#### 手ぶらで集まれる 101 畳の ひみつきち「toi」

受賞者 「toi」代表者 大越 元

所在地：奈良市内

築 50 年の 2 階建て民家であり、民家の家主が建物の大部分と庭を 10 代、20 代の若者に開放しておられます。この『場』で過ごした若者がその経験をきっかけとして、新たなコミュニティーを広げる可能性を示している「住み開き」の好例です。



### 奨励賞

#### 廃墟映画館 東川（うのがわ）ノイマ

受賞者 未木設計舎 級建築士事務所 向川智己

所在地：吉野郡川上村東川1地内

元割り箸工場を廃墟という価値を残したまま、集いの場「映画館」として活用することにより、地域内コミュニティーの維持にチャレンジしておられます。近年、民家を再利用する着想は得やすくなっていますが、本作品は廃棄物の気の利いた利活用も含め、半屋外空間の活用のありかたの一例を示しています。



### 奨励賞

#### 公設フリースクール「HOP あやめ池」

受賞者 奈良市

所在地：奈良市あやめ池南9

旧幼稚園をリノベーションした不登校児童生徒の支援を行う教育センターです。ややもすると無機質な空間となりがちな教育施設において、廃校となった学校で使用されていた備品を用いたデザインやアイデアが随所に見受けられ、子供たちに色々な表現をしたいと思わせるような空間となっています。



## ■ 結び

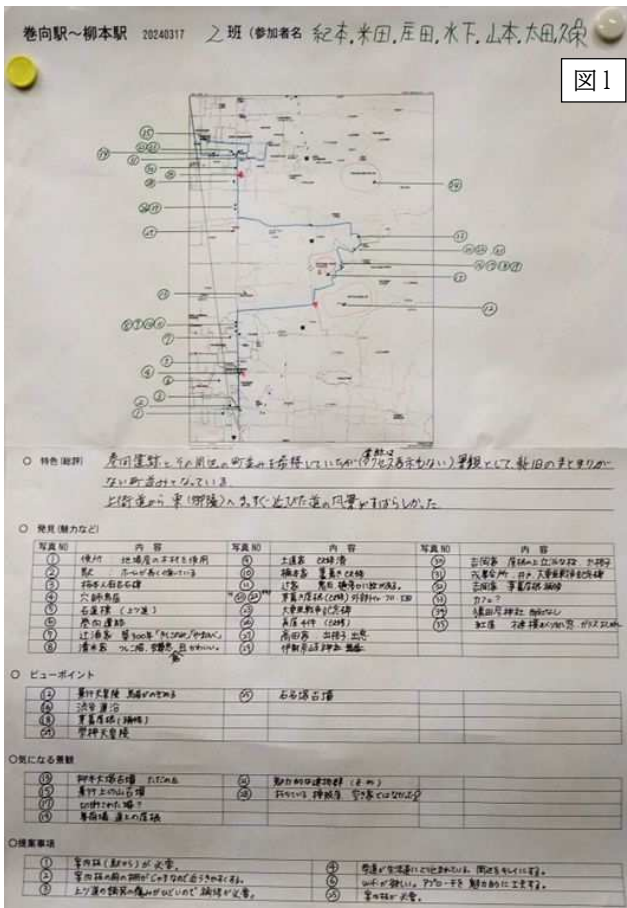
未来に向けて多くの課題に直面している我が国において、今回の受賞作品はもちろんのこと、その他の応募作品も含め、それぞれの立場から地域コミュニティーを再建しようとする意志を感じることができました。各地域でのこのような活動が点から線へ、さらには線から面と広がっていくよう『(場)を生むデザイン賞』がその一助となれば幸いです。

【記：教育・事業委員会 委員長 城田全嗣】

## 第4回 山の辺の道・万葉まほろば線を起点とした歴史的な建造物等の掘り起し事業 JR巻向駅～(山の辺の道・上ツ道 沿いの集落)～JR柳本駅

住まいまちづくり委員会が主催し、奈良ヘリテージ支援センター・天理支部・桜井支部が共催し、令和6年3月17日(日)JR巻向駅～JR柳本駅間を総数14名が2班に分かれ、地域資源(歴史的建造物・自然・景観・観光資源など)を掘り起こし、新たな発見や魅力・気になる景観・提言したいことなどを抽出した。

1班は、巻向駅～巻野内集落～穴師集落～(山の辺の道)～景行天皇陵～崇神天皇陵～天理市トレイルセンター～柳本公民館まで。2班は、巻向駅～新設の木質の公衆トイレ～纏向遺跡跡～(上ツ道)～渋谷集落～(上ツ道)～柳本の町並み～柳本公民館まで。午前中は、気づいたところをメモし写真も撮りながら歩き、午後からは、みんなで意見を出しながら、班ごとに模造紙【図1】にまとめ、写真を見ながら発表した。【写5】



後日、堀井氏から、集落内に室町時代の土堀が残っており、平家の邸宅のものであると教えて頂いた。

次に、山の辺の道では、おもてなし感がある色々なタイプの100円で買える農産物販売用屋台、次のトイレまでの距離が書かれた安心案内看板、ビュースポット案内板などを発見できた。

一方、気になる点は、山の辺の道の休憩所で出会った高齢の観光客夫婦との会話から、巻向駅すぐの旧小学校跡地に新設された立派な木質の公衆トイレ【写4】ができていないのに案内が無いため、駅舎の古い和式トイレを利用され、不自由であったことが判明した。

また、色々な団体が独自に建てたが、メンテナンスできていない複数の案内板。

寄贈した団体名が前面に大きな文字で書かれたモニュメント石像が気になった。

これで、本当におもてなしがあると言えるのか？今後、どうしたら改善できるのか？何にスポットをあてるべきなのか？など観光客と住民目線で公民が連携し対処すべきと感じた。

次回、5月25日(土)9:00に集合し、巻向駅～箸中集落～元伊勢である松原神社～日本景観100選の井寺池周辺～茅原集落～芝集落～三輪駅まで歩きます。

皆で歩きながらいろんな発見をしましょう。参加をお待ちしています。

【記：桜井支部 中尾七隆】



令和5年度全国まちづくり委員長会議が、熊本県で令和6年2月23・24日に第32回まちづくり会議「震災からの復興と歴史的環境の保全、活用」と題して開催されました。全国から約90名が参集し、元日に発生した能登半島地震の状況やその後の対応などの情報を共有しながら、建築士に何ができるか、何をすべきか、その備えと実行性が議論されました。

震災後8年が経過した熊本の城下町は平静を取り戻しており、繁華街はむしろ奈良には無い活気さえ感じました。しかし、郊外の風景がそれ以前の姿と違うことは、新町（しんまち）、古町（ふるまち）へのまち歩きでよくわかりました。被害を受けた建物を公費解体に委ねる決断をすると元には戻りません。思い入れがあり、残したい気持ちがあったとしても、すさまじい、そして絶望的な光景を前に、断腸の思いだったことでしょう。これには資金面や心の支え、そして背中を押されないと残らなかったであろう側面があります。維持保全をするには、それに関わる人々の連携と次世代へ繋ぐ相当な覚悟が必要だとよくわかりました。この地域では震災以前から活動していた「まちづくり団体」や「ヘリテージマネージャー」の存在が歴史的建造物や町家の修復保存に一翼を担ったようです。残念ながらもなくなってしまったものは仕方がないとしても、その跡地の活用が、有料駐車場や中高層の建築物に多くを割り当てられる光景を目の当たりにすると、もう少しどうにかならなかったのかなという思いがこみ上げてきます。

一方で、熊本の県や市の建築行政がまちづくりに対して多大に尽力し、なおかつ市民団体などと連携が取れていることには目を見張るものがありました。ここでは行政主導で「歴史まちづくり計画」が策定され、空き地や空き家、または道を含めた地域資源の利活用の促進に向けた実証実験を実施し、多面的な支援を講じています。このことも復興に活力が生まれている要因だと感じました。

能登半島地震への復興支援はまだまだ行き届いていません。被災後に間もなく熊本の地から、時間の経過とともに順になすべきことの助言と支援に赴いていると聞きました。被災者の心に寄り添った復旧、復興の支援の策は、経験してこそ生まれるものですが、その経験を活かした行き渡った支援がなされることを願うと同時に、そこで我々建築士の職能が発揮されることを誓い、散会しました。

【記：住まいまちづくり委員会委員長 伏見康司】



令和6年2月16日（金）に奈良県大和高田市にある奈良県産業会館にて、「浸水被害住宅の技術対策マニュアルに関する勉強会」を開催しました。

講師には昨年引き続き、（一社）和歌山県建築士会副会長・（公社）日本建築士会連合会 災害対策委員会委員であられる、中西重裕様をお迎えし、建築士及び行政としての浸水被害住宅の技術対策・対応について講義いただきました。また、募集定員一杯となる30名の参加者の方々と共に2時間、しっかりと勉強させていただきました。



講義内容は、1. マニュアルの考え方と利用方法から始まり、応急処置での基本的注意点や水害後の対応方法。2. 被災住宅の応急処置と応急復旧工事における流れや注意点。3. 被災住宅の相談窓口業務における注意点や相談員の心得や具体的対応事例。4. 最後に被災住宅の応急復旧体制の提案があり、応急復旧工事概算費用算出の要領等の説明がありました。

（講義内容の詳細は本会ホームページを参照下さい）

#### 【まとめ】

私は普段、施工主体で活動しているので、ある程度の復旧活動は理解をしているつもりでしたが、災害に関連した法律や行政とのやり取りに関する体制や登録事業者のリスト作成に関した提供づくりなど、まだまだ知らない点が沢山あり、細部にわたっての取り組みの必要性を痛感しました。

今回参加された皆様方も同様のお気持ちをもたれたのではないかと思います。

災害の少ない土地であるが故に、いにしへの時代に都が置かれ、災害の発生や被害に対する危機意識の低さが定着している奈良県ですが、南海・東南海地震について、かなりの高確率での発生が叫ばれています。この勉強会で培った知識や情報を活かし、今後、奈良県建築士会として官民一体となった“災害に対するネットワークづくり”に真剣に取り組んでいかなければならないと改めて考えさせられた勉強会となりました。

#### 【結び】

今回講師を快諾していただきました中西様、そして平日のお忙しい時間帯にも関わらず、参加してくださいました皆様に、この書面をお借りして、御礼を申し上げます。

【記：教育・事業委員会 坂本慎二】

現在、国の重要伝統的建造物群保存地区は105市町村で127地区あり、全国的な広がりを見せていますが、保護の根幹をなす伝統的建造物の保存修理事業の業務に携わる専門家の育成が求められています。

また、国登録有形文化財（建造物）は、R6.3.1現在13,761件と、全国的に文化財建造物の保存活用の気運が高まっていて、近年では外観の美観向上を目的とした保存修理に関する国庫補助も開始されたことで、適切な保存修理に対する専門家の介在が求められています。このような文化財建造物の保存活用を取り巻く環境を踏まえ、連合会の指導もあり令和5年度より3年間の予定で文化庁の助成を受け、「ヘリテージマネージャー（以下HM）向けスキルアップ講習会」を開催しています。この講習会は、文化財建造物の保存修理に従事する上で必要となる実務上の専門的な知識と実践的なノウハウ等の取得を目指し、文化財建造物の保存活用事業に対応できる人材の育成を目的として延べ5回のカリキュラムで行います。

令和5年度の講習会は11月より開始し、第1回は今井町の華蕙にて専門の先生から講義を受けました。



（講義風景）

第2回も今井町の華蕙にて講義と午後からは今井町の空き町家の修理・活用について演習を行いました。第3回は桜井市にて講義と国登録有形文化財の研修並びに文化財建造物の改修についての法的課題を検討する演習を行いました。

第4回は興福寺にて五重塔修理の講義と視察、午後からは奈良町で町家を活用されている事例を確認しながら講義と活用についての演習を行いました。



（興福寺研修）

第5回は宇陀松山にて講義と視察、午後より菟田野にて旧小学校校舎の実測演習を行い、今年度の講習会は終了しました。奈良県建築士会HM育成講習の修了者は延べ113名です。育成講習以降、スキルアップ講習も開催が少なくなっています。HMの皆様、7～8月頃に案内しますので、この機会に受講頂き、スキルを上げて文化財修理活用業務に携わっていきましょう。

【記：奈良ヘリテージ支援センター 紀本澄男】

令和5年度奈良の木でつくる非住宅建築技術者研修に参加しましたのでご報告します。

本研修は、令和4年度に引き続き、奈良県主催の非住宅建築の木造化を担う県内事業者向け基礎知識習得のための研修として開催されました。具体的には、参加者らがグループに分かれて、木造非住宅設計課題をもとに木造建築の設計を行い、最終的に設計成果としてプレゼン提案を行うという内容でした。

また、実際に木造建築の建設現場の視察を行う等、大変内容の濃い研修でした。以下、開催の概要を下記します。

「設計演習講座」では、受講者12名が3人1組の4グループに分かれて、延べ面積1200㎡程のこども園を木造で設計、提案発表しました。

第1回 令和5年8月17日

こども園の課題説明。設計を進めるための要点や建築事例の紹介

第2回 令和5年9月20日

中大規模建築物の木構造計画について

第3回 令和5年9月21日

中大規模建築物の耐火火計画について

第4回 令和5年10月20日

中大規模建築物の木材調達維持保全について

第5回 令和5年12月1日

設計課題のグループ発表、講師による講評

「基礎講座」では、建設現場の視察として、大淀町子育て支援拠点施設「未来樹」を視察し、座学として、地域材調達～どのように地域の木材を利用するか～をテーマに学びました。

毎回の講義においては、講師の先生に質疑を行い、解説をいただきながら、設計を丁寧に進めることができました。最終の第5回のグループ発表では、4グループの計画にそれぞれの色があり、独創的でチャレンジングな設計もあって、木造建築の中は広いんだと感じました。今回の講義で得た知識や関連資料等を都度、振り返りながら、今後も取り組もうと感じました。

また、余談ですが、講義の後には、懇親会もあり、主催者、講師の先生、また受講者の方（意匠設計者、構造設計者、建設施工者、木材供給者など）との繋がりも出来たりして、その時間も有意義でもありました。

最後に本年度も引き続き、奈良県産材利用推進課（旧奈良の木ブランド課）では、奈良の木でつくる木造建築技術者研修が開催されるようですので、奮ってご参加ください。

【記：情報・広報委員会 小西直樹】

女性委員会ふくまち部会では、3年前より「観光バリアフリー」について取組んでおり、今年度は、これまで取組んできた高齢者や障がい者目線での取組みから、新たに「すべての人にやさしいまちづくり」を掲げ、子どもたちと観光地や街を一緒に歩き、現状と今後を考えていく事業を企画しました。

日は、3月3日 ひな祭りの日。とても天気の良い晴れの日で、観光日和でした。場所は、大阪城。参加は、大人7名、子ども6名の計13名でした。

子どもたちには、バリアフリーの仕掛けに気付いてもらうように、手すりやスロープなどを見つけたら、チェックを入れるビンゴカードを渡しチャレンジしてもらいました。

大阪城公園駅からまずは、「ジョウテラス」に向かい、子どもたちは、看板やピクトサインを次から次に探し当てビンゴカードにチェックを入れ、多分、普段とは違う探し物を楽しんでいるように思いました。

途中、授乳室やおむつ交換のあるトイレスペースを見つけ、「どう使うのか？」などを口々に話しながら、のぞき込んでいました。



↑ビンゴカード    ↑ジョウテラス    ↑階段+スロープ

大阪城まで向かう途中、その道中にある石垣や階段やスロープは、子どもたちにとっては、ちょっとした遊具で、走ったり、登ったりとその元気に圧倒される楽しい散歩となりました。そこでも手すりがあるね！とか、点字がない！とか意見をいただきながら、お城まで向かいました。お城の中は、観光客であふれかえっており、中の展示は、子どもたちは模型以外、特に興味を示さず、天守閣の最上階まで登っていきました。

その後、子どもも交えて、皆でお昼を食べながら、意見交換をしました。子どもたちからは「点字や点字ブロックが少なかった」「オストメイトがなかった」など積極的な意見をいただきました。また後日、参加した子どもが学校提出の日記にこの取組みのことを書き先生からたくさんの花丸をいただいていた。

子どもたちとの見学会は、新たな気付きもあり楽しいものでした。次年度も第二弾が出来ればと思います。

【記：女性委員会 ふくまち部会 寺岡春恵】

女性委員会和室部会では、毎年「民家の勉強会」を開催しています。今年度は前年度に引き続き、20年に渡り伝統的民家における温熱特性の調査及び研究をしている金田正夫氏（無垢里一級建築士事務所主宰・東京）を講師にお迎えし、オンラインセミナーを開催しました。前年度は戦後60年間で一気に生まれた環境異変や、その原因が大量生産・大量消費・使い捨てにあること、また、便利な機器や工業材料に頼らない住まいの環境づくりとして自然の原理を見出し、建物に工夫が求められる暑さ寒さの4要素（気温・風速・放射熱・湿度）について概論を教えてくださいました。

今年度は自然の原理を見出し、建物に利用する実践編です。『省資源』をキーワードとして、暑さ寒さの4要素の中でも重要な「放射熱」の原理を中心に、戦前の民家を温熱実測し、現代の住宅に応用した実例の検証を交えながら、科学的にわかりやすくお話しいただきました。開催は3月15日（金）の18:30から21:00まで行い、参加者は20名で奈良県建築士会の女性委員会の方だけでなく、奈良県建築士会、京都府建築士会、古材文化の会、もく(木)の会と様々な方にご参加いただきました。

空気を介さず人や物を直接温めるのが放射熱（赤外線）です。特に備長炭や薪やセラミックスを熱源とする床・壁暖房は、物が熱を吸収しやすい遠赤外線を発するため少ないエネルギーで効率よく人を温めます。このことを波長や式、実際に建物の床・天井・軒裏を測定した図表を用いて説明していただきました。

また茅葺屋根のような急勾配の屋根や深い軒の出が夏の遮熱・冬の受熱に効果的であること、深い軒の出は外壁の汚れや痛みを防ぎ長寿命化につながることで、置屋根・屋上緑化・格子・すのこ・日陰・緑陰などの遮熱効果について先生ご自身の設計した建物の実例や検証結果を交えてご説明いただきました。

最後に私の感想ですが、未来の地球環境や省エネルギーについて考えるにあたって、気密と断熱に頼る省エネ法とはまた別の指標があっても良いのではないかなと感じました。

またセミナーが始まる直前の先生とのお話の中で、オンライン講義では聞いている方たちが何に興味があるのか分かりづらく、今後の自分の講演にフィードバックするのにご参加の方々の質問や感想をぜひお聞きしたいとのことでした。おかげ様で質問や感想が多く寄せられ、先生も大変喜んでおられました。ご参加の皆様ありがとうございました。次回はぜひ先生に奈良にお越しいただき、講演を直にお聞きできればと思います。【記：女性委員会 和室部会 西本翠】

## お知らせ

### ●令和6年度通常総会の日程

日時：令和6年5月17日（金）15：30～20：00

場所：ホテルリガール春日野

議事：令和5年度事業報告及び決算について  
理事の選任について

令和6年度事業計画及び予算について

他：デザイン賞表彰式・懇親会等

※ 正会員の皆様は、ご案内しております出欠表  
をご提出頂きますようお願いいたします。

欠席される場合は、必ず委任状をご提出頂  
きますようお願いいたします。

### ●年会費納入のお願い

本年度会費につきまして、未納の方は速やかに  
お振込み頂きますようお願いいたします。

### ●第2回建築士サロン会

令和6年5月30日（木）13:30～

・平城宮跡東楼復原整備 素屋根研修見学会

・意見交換懇親会

詳細は案内チラシをご確認ください。

### ●令和6年度「建築士の日」記念事業

令和6年6月30日（日）実施予定

詳細は確定次第ご案内いたします。

### ●入会

木下 晃輔 様（奈良支部）

井本 尚之 様（高田支部）

よろしくお願いいたします。



## 編集後記

自分の年齢と残りの人生のお話です。私自身、  
昨年55歳となりました。仕事もプライベートも、  
まだまだやり残しがあり、これからも頑張るつも  
りです。いま（55歳）から10年間、続けること、  
目標を書き出してみました。書いたものを見ると、  
マラソンや山登りなど、殆ど身体を動かすことで  
ありました。65歳になって、身体を壊す予定では  
ないですが、何も考えず、自然にそのようなこと  
を書いてしまったのだと思います。逆に10年前か

ら現在では、身体は良くも悪くも、色々な面で  
変化してきたように感じております。

今後10年でまた、変化していくであろうと  
考えております。低い目標を設定し、これから  
の人生、それを一つずつ達成して参ります。今  
後5年か10年ピッチぐらいで、簡単に達成で  
きそうな低い目標を立てて、達成しながら過  
すことも楽しいと思います。お勧めさせていた  
だきます。 【記：上柿範兼】

## 5月

17日（金）令和6年度通常総会

22日（水）監理技術者講習

25日（土）第5回山の辺の道まち歩き

30日（木）第2回建築士サロン会



## 6月

26日（水）建築士定期講習

30日（日）建築士の日 記念事業



## 士會奈良 通巻655号

令和6年5月1日（発行隔月1回1日発行）

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館

電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333

<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>

[info@nara-kenchikushikai.or.jp](mailto:info@nara-kenchikushikai.or.jp)

発行責任者 米村博昭

編集集 （一社）奈良県建築士会 情報・広報委員会



## 情報・広報委員会

委員長 福田 成生

副委員長 伊藤 吉郎 小西 直樹

委員 吉村 晃人 平田 正裕

門脇 直也 溜谷 剛

永友 翔 松尾 憲治

上柿 範兼 鈴木 茂

小松原寛俊 洞 尚樹

押部 誠 高杉 明

私の選択は  
間違ってた  
間違ってなかった

選んだのは、合格者の50%以上が  
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度一級建築士試験合格 当学院受講生・伊藤  
田中道子さん

1級建築士  
合格実績 No.1

平成26～令和5年度  
1級建築士設計製図試験

全国 **10年間**  
合格者占有率 **54.8%**

全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。本組合資格学校の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の夜校提供生、過去受講生は一切含まれていません。(令和5年12月25日現在)

各講座のクオリティは上げながら  
受講料を **値下げ** しました

PRICE DOWN

詳細は奈良校まで！

総合資格学院



開講講座  
建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築  
設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先  
奈良校 TEL:0742-30-1511